

令和3年度の当事者団体・福祉専門職団体の皆様との意見交換(主な意見)

災害時要援護者支援連絡会(令和3年10月開催)において、個別避難計画の段階的な作成に関する意見交換を行い、その後、計11団体との意見交換を実施した。

【構成団体】 社協、民生児童委員、老人クラブ、PTA、当事者6団体、福祉事業者等5団体、警察、防災士、関係課

区分	団体名	開催日	主な意見
当事者団体	手をつなぐ育成会	R3.11.4	等級等だけでは優先順位の判断は難しいが、市の段階的な計画作成の考え方で個別避難計画を進めてもらいたい。団体として計画作成を協力して進めたい。
	身障者連盟福祉協会	R3.11.7	等級等だけでは優先順位の判断は難しいが、市の段階的な計画作成の考え方で個別避難計画を進めてもらいたい。団体として計画の周知の場を設定するので、計画作成を協力して進めたい。
	難病団体連絡協議会	R3.11.8	市の考え方に基づき、個別避難計画を段階的に作成していくことは理解した。
	心身障害者父母連絡会	R3.11.16	市の考え方に基づき、個別避難計画を段階的に作成していくことは理解したが、福祉避難所への直接避難や要配慮スペースの振分けについて検討をお願いしたい。
	あまかれん	R3.12.15	個別避難計画を段階的に作成していくことは理解できるが、等級だけでは優先度の判断は難しく、データだけでなく実態で判断してほしい。また、精神障害者は地域とのつながりづくりが難しい。地域に提供する場合は守秘義務を徹底してほしい。
	兵庫県LD親の会たつのこ	R3.12.15	個人情報の管理について心配だが、市の段階的な計画作成の考え方に基づき、ぜひ、少しずつでも進めてほしい。
	障害者団体連絡会	R4.1.19	市の考え方に意見はないが、障害者団体連絡会では災害時に協力できるよう名簿を提供してほしい。名簿が提供されるのであれば、助ける優先者を決めておくことも考えている。
福祉専門職団体	地域包括支援C連絡会	R3.11.29	避難支援には、地域の協力が必須であり、そのための啓発が必要で、包括も協力することができると思う。また、ケアマネ向けの研修会でも協力はできる。ただ、計画の更新が問題となる。
	CM協会・居宅介護事業所連絡会	R3.12.16 R4.3.25	個別避難計画の作成には協力するが、作成を進めることは容易ではないと感じている。ケアプランに避難先等を記載することは、自分たちですぐに協力することができる。
	相談支援事業所連絡会	R3.12.21	相談支援専門員は通常業務で多忙なため、無償で協力することは難しい。災害を考えるきっかけとして計画を活用したい。計画のハザード情報の落とし込みや計画更新時期等の検討が必要。

【出前講座実施状況(避難行動要支援者の避難支援について)】手をつなぐ育成会(R4.3.22・R5.1.20) 身障者連盟福祉協会(R4.3.12)心身障害者父母連絡会(R4.10.26)